



▲ 藤岡城(芦田城)の築城図

天正18年(1590)11月に松平康貞(真)によって築城が開始され、慶長5年(1600)正月に改易となり、9年余りで廃城となりました。



◀ 藤岡城(芦田城)の裏門

城の北側にあった裏門は、現在は天竜寺に移され、山門として伝えられています。



▲ 藤岡城(芦田城)の土塁

城の土塁の一部は現在の藤岡第一小学校内に公園として残されています。

依田信蕃の生涯

天文	17 (1548)	依田信守の嫡男として信州芦田に生まれる
元	15 (1558)	武田の人質として諏訪の高島城に預けられる
永禄	9 (1566)	武田氏の命により北条軍に備え、父信守と武州御嶽城(現神川町)を守り、上州浄法寺(現藤岡市浄法寺)に居住
	11 (1568)	武田信玄と徳川家康の今川氏真攻略に参陣
元亀	3 (1572)	武田信玄の上洛に伴う三河侵攻に信守と共に参陣し、美濃岩村城攻防戦で700手勢で5,000の織田信長勢を破り戦功を上げる
	3 (1575)	遠州二俣城に入り、徳川軍の攻撃を知略によって7カ月の籠城戦に耐える。武田軍の退去に伴い、徳川軍へ明け渡し
	9 (1581)	武田氏滅亡により、駿河田中城を徳川軍に明け渡し、信州へ戻る
	10 (1582)	織田信長から切腹の命が下るが、家康が止め、家康の家臣となる 北条氏直の信州攻めで、信州春日の三沢小屋にこもり、北条軍を牽制し、徳川軍の佐久平定を行う
	11 (1583)	岩尾城攻略で信蕃戦死。家康は信蕃の子に松平姓と「康」の1字を与える

「藤岡のまちを作り、徳川家康を助けた依田信蕃」

藤岡歴史館で依田信蕃にスポットを当てたコーナー展示を行います。
市指定重要文化財の「依田信蕃書状及び知行宛行状」などを展示しますので、ぜひご覧ください。

- 期間 7月1日(土)～9月17日(日)
- 会場 藤岡歴史館

市長コラム



ヒマワリに思いを込めて みんなでつなぐ地域、人々との絆

ヒマワリでつなぐ市民の絆活動で、種をまいていただいたヒマワリがすくすくと育っています。間もなく開花最盛期。ヒマワリの成長とともに、皆さんの藤岡市への愛情が育まれ、「ヒマワリがきれいに咲いたよ！」こんな声掛けで、地域の人々の絆が深まることを願っています。採れた種は来年度の市制施行70周年のイベントなどでお配りします。多くの人に携わっていただき、一緒に藤岡市を盛り上げましょう！
ツバメが巣立ちを迎えています。幸せを運ぶツバメが天高く咲くヒマワリの上を飛ぶ光景に、未来に希望が持てるまちづくりへの思いを一層強くし、日々全力で取り組んでいます。

戦国武将 依田信蕃という男

現在NHKで放映中の大河ドラマ「どうする家康」では、「徳川家康が天下人になるまでの生き様が描かれています。そんな家康と関係が深く、藤岡市にゆかりのある武将が依田信蕃です。作中では家康のいくつかの危機が描かれ、その1つに武田信玄との戦いがあります。信玄と家康は手を結び、今川氏に對抗していましたが、家康は永禄12年(1569)掛川城の攻防戦で勝手に今川氏真を助命し、北条氏と和解。さらに信玄との甲三同盟を一方的に破棄しました。その翌年には家康は上杉謙信と越三同盟を結ぼうと画策したために信玄の怒りを買って、信玄は上洛と共に駿河を侵攻して、家康を元亀3年(1572)に三方ヶ原で大敗させます。その時、信玄の家臣団の1人として参陣し、活躍するのが依田信蕃です。

天正3年(1575)長篠の合戦で信蕃は武田の家臣として、武田勝頼が織田徳川連合軍に大敗した際に遠州二俣城で奮戦しました。武田氏滅亡後には徳川の家臣として豊臣秀吉の小田原・北条攻めなどで活躍し、家康に信頼をおかれた武将でした。その証として、信蕃の戦死後に家康は信蕃の子に松平の家名を与え、「康」の字を贈っています。永禄9年(1566)に信蕃は浄法寺(現藤岡市浄法寺)に居住し、藤岡城(現在の藤岡市小林付近)の築城を計画します。天正18年(1590)には信蕃の次男である松平康貞(真)が藤岡3万石に封ぜられ、藤岡城(芦田城)の築城(現藤岡第一小学校の敷地)と城下の整備を行い、現在にも残る藤岡市街のまち並みが形成されました。ドラマには配役や登場はないようですが、藤岡市にゆかりのある武将がいたことを想像しながらドラマを見ると一層楽しいかもしれません。